１人１台端末の効果的な活用に向けた取組

越前市白山小学校

１. はじめに【今年度校内研究についての概要】

本校の学校教育目標「豊かな心と健やかな体をもち、進んで学ぶ子を育てる～未来を切り拓き、かがやけ白山っ子～」の実現をめざし、「学び合う楽しさを味わい、主体的に学ぶ子の育成をめざした対話力向上と ICT の効果的な活用」を研究主題とし、校内研究を進めてきた。

研究を進めるに当たり、次の２つのことを柱に各学年に応じた取り組みを考え、実践を行った。

●柱１　ICT を活用した授業の展開･･･対話力向上につながる活用
①【共有する】多様な考えを共有する場での活用のしかた
②【個で学ぶ】個別最適化された学びへの活用のしかた
③【拡げる】自分の考えを拡げるための活用のしかた

●柱２　対話力向上のための授業の展開･･･集団の中で多様な思考力や表現力を育成し、活用できる授業展開の工夫
①【聞く】考えの相違点や聞く観点に基づいて話を聞く。
②【伝える】図や表、データ等も活用し、自分の言葉で論理的に伝える。

２. 各学年の実践例

【１年生】柱１①　柱２②についての取組

●実践

１年間を通し、教科を問わず、写真や図を提示しながら自分の考えを伝える場面でタブレットを活用した。

●成果と課題

最初は撮りたい写真を撮るだけにとどまっていた児童も継続的に活動をする中で、相手により伝わるにはどのような画像にするとよいか考え画像を編集したり、資料を提示する際にポインターで示したり、工夫することができるようになっていった。伝えたいことを短文にまとめるなど簡単なプレゼン資料を作成していく活動も積極的に行っていきたい。

【２年生】柱１②③についての取組

●実践

朝学習の時間にタブレットを利用して、漢字ドリルの QR コードからそれぞれのペースで漢字の書き順などの復習を行った。それぞれが間違いがなかった単元を見える化し、自身のがんばりを実感できるようにした。

●成果と課題

タブレットを利用することで、それぞれの進度に合わせて学習が進めることができた。筆順は漢字プリントでは、教員は確かめることができないが、タブレットを利用することで、児童も筆順に気をつけて漢字を書くようになった。しかし、書いたにも関わらず、筆順が認知されず、間違いとされてしまうことがあった。機器トラブルがあった場合を想定した課題の準備を合わせて行っていきたい。

【３年生】柱１①　柱２①についての取組

●実践

国語の学習では、二つの場面の内容を比べる学習活動をタブレットで行った。本文と同じ文章が書かれたワークシートに目的に合った色で線を引き、違いを比べた。

●成果と課題

書いたり消したりする作業が簡単で、以前より早く、見やすく保存することができた。一人一人が思考する時間、考えを共有・深める時間の確保に繋がっている。また、互いの相違点が視覚的にわかりやすくまとめられているため、スムーズに話し合いをすることもできた。

【４年生】

●実践

国語の「カンジーはかせの都道府県の旅」では、いろいろな県の名所や名産品をインターネットで調べ、必

要な情報を収集しながら文章を書いた。

●成果と課題

文章に合った画像を選ぶことができ、友達と共有してより具体的に都道府県を知ることができ、伝統工芸の良さを伝えるパンフレットを作成できた。インターネットの情報の多さから、選ぶのに時間がかかる児童もいた。選ぶ視点を明確にして情報収集ができるようにしていきたい。

【５年生】柱Ⅰ②③についての取組

●実践

家庭学習と授業のつながりを意識して、実践を行った。その一つが、タブレットを活用したリコーダーの家庭学習である。授業で練習してきた曲名「小さな約束」を家庭で練習し、１番上手くできた動画をメタモジのシートにアップするという課題を出した。

●成果と課題

家庭での練習は、時間の制約がないため、自分の演奏を見直しながら納得できるまで練習できた。授業で上と下のパートを合わせる際に、それぞれのパート練習に時間をかけずに、音の重なりを考える場面を充実させることができた。また、保存した動画を使って、評価に生かしたり、躓きが見られた児童への手立ての工夫に活用したりすることができるなどの成果があった。

【６年生】柱Ⅰ①③についての取組

●実践

国語の「伝えにくいことを伝える」の学習で、タブレットを活用した。思いや考えを伝えにくい場面をいくつか設定し、３人で１グループになり、それぞれのグループに異なる場面を伝え場面のやり取りを動画におさめた。その動画を見て、相手に伝えにくいことを伝えなければいけないときの言葉の選び方や表情、声色、言い方などを客観視して、よりふさわしい伝え方になるように何度か試させた。

●成果と課題

動画を活用し伝え方を客観視できたことで、言葉の選び方だけではなく、表情、声色、言い方の重要性についての理解が深められた。伝え方を考える→やり取りを動画に記録する→動画を視聴し更にふさわしい伝え方を吟味するという活動には、充分な時間が必要であった。活動時間が不足したグループもあった。より効果的に ICT を活用するためにも、それぞれの活動の時間配分やグループ活動での役割分担など明確にしながら授業を組み立てていけるようにしたい。

３．終わりに

小規模校ならではの落ち着いて学習に取り組むことができる学習環境の中、今年度も教職員・児童共に ICT を積極的に活用することができた。端末やアプリ操作が更に向上し、各教科はもちろん児童会やクラブなど、様々な活動において活用の幅が広がっていった。１月末には、探究学習発表会を行ったのだが、地域の方に学習成果を発表する場においても、環境学習で調査してきたことをデータ化したり、プレゼン資料を作成したりする等、児童それぞれが工夫を凝らした資料を提示しながら、発表をすることができていた。

自己との対話、課題との対話、友達との対話を意識し、学年に応じた ICT の積極的な活用を通して、学び合うことの楽しさに気づき、自らの学習課題を見つけ、解決しようとしたり、学んだことを生活の様々な場面に生かそうとしたりする子どもたちの姿が多く見られるようにもなった。

子どもたちの知的好奇心や探究心を高め、様々な場面で対話し、学びを主体的に拡げることができるように、更に効果的な ICT 活用について実践を重ねていきたい。また、学習している内容について他の学年や地域連携との繋がりを整理し、教科横断的な学習についてもこれまで以上に意識し、系統性と関連性を踏まえた授業づくりに取り組んでいきたい。